

身体を洗う習慣の違い

A班

ヨーロッパの入浴の変遷①

～古代ローマ

古代ローマでは入浴の習慣があった。



ヨーロッパの入浴の変遷①

～古代ローマ

- 4世紀にキリスト教がローマ帝国に入ると、入浴の習慣は廃れた。
- 官能に身を任せる異教徒への嫌悪感から、キリスト教徒は身体を洗うことまでやめてしまい、創造主に認められた人間の身体なら当然の、汗と脂の匂いを発散することを誇りに思うようになった。

ヨーロッパの入浴の変遷② ～近世のフランス

16世紀ごろからは、「皮膚に水が浸透することでウイルスの影響を受けやすくなる」、「毛穴から体液や活力が出て行き、代わりにウイルスが入る」などという独特の身体観が広まっていた。

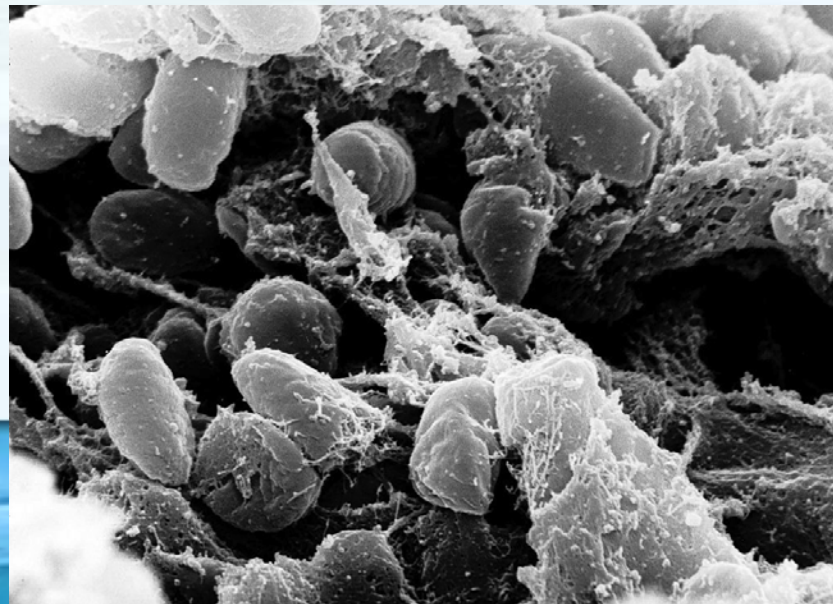
17世紀には何度もペストが大流行していたこともあり、人々は水への恐怖から入浴を避けていた。

ヨーロッパの入浴の変遷② ～近世のフランス

しかし、18世紀中頃には疫病の大流行もなくなってきたし、水の浸透は危険視されなくなってくる。今度は「冷たい水は体内の循環を促進し、病気の治療に役立つ」という身体観が広まり、冷水浴の効用が注目されるようになった。

ヨーロッパの入浴の変遷② ～近世のフランス

- 19世紀末に、細菌が病気の原因になることが発見されると、現代的な衛生観が発展していった。→現代的な身体観へ
- 目に見えない細菌まで洗い落とすことが清潔とされるようになった。



身体を洗う例①：日本

- 多くの人が、毎日お風呂に入る。



身体を洗う例①：日本

- ・熱い風呂に入るー温泉好き

温泉地の数：3,085カ所(2014年)

温泉施設数：21,292カ所(2014年)

年間延べ宿泊者数：124,695,579人(2014年)



身体を洗う例①：日本

- 日本は高温多湿なので、汗を流さなければ蒸れてしまう。
- 高温多湿対策で風通しのいい家が好まれたため、防寒対策として熱いお風呂への入浴が好まれた。
- 火山島のため土ぼこりが舞いやすい、至る所で温泉が湧いているという地質的な理由。

身体を洗う例①：日本

宗教などの影響

- 禊の風習（神道）
- 病を退けて福を招くものとして入浴が奨励された（伝来当初の仏教）
- 日本人の風呂好きは、入浴により垢とともに煩惱を落とすという宗教的な考え方に基づいている？

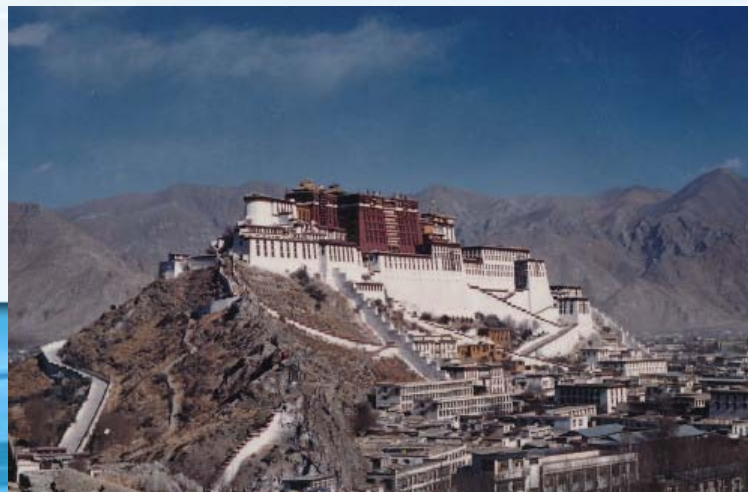
身体を洗う例②：タイ

- 水資源が豊富なのでシャワーを頻繁に浴びる
- 外出する前にシャワーを浴びる
- 一特にお寺へお布施に行く時
- 高温多湿
- 仏教の影響も(?)



身体をあまり洗わない例① ～チベット

- 標高が高く、乾燥しているチベット高原に住むチベット族などは、一生に三回しか体を洗わないと言われている。①誕生直後、②結婚式の前夜、③死亡した直後。
- 基本的には水が少ないのが原因。乾燥地域だから汗がすぐに乾くため、不潔とは感じない。



身体をあまり洗わない例②

～フランス

- フランス人は週に一度くらいしか風呂に入らない。
- その理由は、身体の「テラン(terrain:体質)」によって有益な、身体についての脂や汚れを洗い流さないためであると言われている。
- フランスの医療では、このテランが非常に重視されている。それはデカルトの哲学に基づいている。
- 水道代が高いという理由もある。

考察&まとめ

- 身体観は時代によって変わる。
 - ヨーロッパでは、思想的な理由で敬遠されてきた入浴が、公衆衛生観の発展により再び注目されてきた。
- 同じ時代でも、身体観は環境や思想の影響を受ける。
 - 湿度...乾燥している地域では汗がすぐ乾くので、洗う必要がない。温暖湿潤な日本では、汗がなかなか乾かず蒸れやすいので、頻繁に入浴する。
 - 思想...フランスではデカルトの思想の影響から、汗や脂を有益だと捉える。日本やタイでの入浴習慣には宗教の影響がある。

参考資料

- http://hikumano.hama-med.ac.jp/dspace/bitstream/10271/220/1/kiyo10_03.pdf

大木俊夫(1996),Lynn 「Payerの『医療と文化』の一考察」

[http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~konokatu/nakano\(05-1-31\)](http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~konokatu/nakano(05-1-31))

中野 洋子(2004),「ヨーロッパの衛生的生活」